CWA NEWS

ウィスコンシン州への千葉県友好使節団派遣報告～友情と交流を深めました～

本年度は、文化・芸術グループ、科学・技術グループ及び保健・福祉グループの総勢21名がウィスコンシン州を訪問し、昨年度に千葉県で交流をした友人や多くの人々と交流を深めることが出来ました。

Walkerウィスコンシン州知事表敬訪問

文化・芸術分野では、日本舞踊のグループがお揃いの着物でウィスコンシン州知事やミルウォーキー市長の表敬訪問を行いました。また、ミルウォーキーを中心に学校等を訪問し、パフォーマンスを披露して交流を行いました。

科学・技術分野では、植物工場の専門家がウィスコンシン州内だけでなく、国際的な専門家が出席したセミナーにおいて、それぞれの成果を発表すると共に施設訪問等を通じて技術交流を深めました。

保健・福祉分野では、看護や栄養、リハビリの専門家が病院や看護大学、小学校、高齢者施設等を訪問し、各分野の専門家との交流を行い今後の大学間交流の示唆を得ました。

今回は、Scott Walkerウィスコンシン州知事やTom Barrettミルウォーキー市長が友好使節団を出迎えて下さり親しくお話をしました。特に、ミルウォーキー市からは、訪問した10月14日を千葉県とウィスコンシン州の姉妹交流の日にするとの宣言文が古在団長に渡されました。また、キッコーマン・フーズ社のウィスコンシン工場を訪問し、同社が40周年を迎えたことをお祝いしました。

以上が派遣報告ですが、今回の派遣に当たり、古在団長を始め各グループのリーダー・団員の皆様には、大変ハードな日程にも拘わらず元気に成田空港に帰ってこられたことに改めてお礼申し上げます。

ウェルカム・ディナー後にホストファミリーと一緒に記念撮影
（Historic Linwood Community Centerにて）

最後にウィスコンシン州での滞在中、3つのグループに多様な計画を企画・準備して下さったWisconsin-Chiba Inc.（ウィスコンシン・千葉委員会）の皆様を始め、訪問先の学校や研究所、病院等の関係者には、大変お世話になりましたことをここに深く感謝申し上げます。

（CWA運営委員長　森山茂男）

各グループの交流活動

文化・芸術グループ

文化・芸術グループは成田市から日本舞踊の八華会（生徒7名、社会人5名）の12名が学校訪問、ダンスの祭典への参加、ケアホーム訪問をし、公演と交流を行いました。白塗りのメークをしての本格的な日本舞踊を初めて見る生徒や先生方の反響、英語の「桜」の曲に合わせての踊りに涙するご老人たちなど、団員にとっても心温まる新たな経験になったと思います。学校では生徒さん達と一緒に給食を頂き、アドレスを交換する一場面もありました。ハイライトは何と言ってもホームステイでした。昨年来葉したポメラニアンダンサーの皆さんのホスピタリティには感激致しました。英語の分からない団員には身振り手振りでウェルカムの気持ちを伝えようとするホストファミリーの優しさや心遣いにも触れたミルウォーキー滞在でした。

（青木靖子）

黒田節

娘みこし

屋敷娘

君が代松竹梅

<団員> 椿和歌子、椿理絵、椿力、杉山竹子、八木沢まさ子、長坂羽七、篠崎歩花、原汐音、福田志保、吉田蓮月、橋本和佳、椿優河（八華会）
青木靖子（千葉ウィスコンシン協会）

<行程>

10/14	Milwaukee School of Languages（ミルウォーキー語学学校）にて公演と交流
10/15	Frederick J. Gaenslen School（小・中学校）にて公演と交流
	Festival di Danza e Cultura（ダンスの祭典）に出演
10/17	Milwaukee Catholic Home（ミルウォーキーカソリックホーム）にて公演

科学・技術グループ

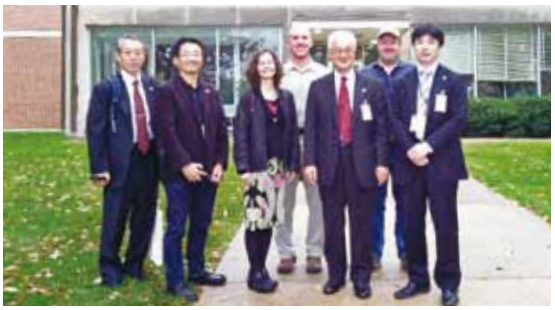
科学・技術グループは13日から17日の間で、専門分野である室内人工光型植物工場の関係施設を始め、野菜の流通の関係では、スーパーマーケットを精力的に視察しました。また、植物工場に関する研究者との情報交換の場としては、Wisconsin-Chiba Inc.やアリゾナ大学の久保田智恵利教授（千葉大学出身）のご尽力により国際セミナーが開催され、米国を始めカナダなどからも多くの研究者が参加して情報交換を行いました。科学・技術グループからは、古在豊樹団長を始め丸尾達教授や嶋村茂治氏から、それぞれの立場で千葉大学柏の葉キャンパス内の植物工場に関する研究成果を中心にした発表を行いました。このセミナーでの交流が今後の新しい農業技術分野の交流につながることを期待したいと思います。

（森山茂男）

国際セミナーで古在豊樹名誉教授が発表した時の質疑風景

丸尾達教授の発表

嶋村茂治氏(右)の発表、左のアリゾナ大学久保田智恵利教授は次に発表



UW Madison Biotron前で記念撮影

<行程>

10/13　スーパーマーケット（野菜･果物コーナーを中心）
10/14　Growing Power（温室等）、Sweet Water Foundation関係者との情報交換
10/15　UW Madison Biotron（ウィスコンシン大学の人工光の植物研究施設）
ORBITEC Technologies Corporation（宇宙開発企業:人工光の植物研究開発）
10/17　International Seminar（会場:UW Milwaukee/School of Fresh Water）

<団員>古在豊樹（千葉大学名誉教授、前学長:団長）
丸尾　達（千葉大学大学院園芸学研究科教授）
嶋村茂治（株式会社みらい 代表取締役）
森山茂男（千葉ウィスコンシン協会）

保健･福祉グループ

保健･福祉グループが訪問したAurora Sinai Medical Centerでは、市内にある医療機関と統一された電子カルテを使用し、患者情報を共有、またセンター内にあるリハビリのプログラムは多岐にわたり、具体的な内容が組込まれていました。お産は救急外来で出産し、翌日退院という人もおり、驚きです。入院環境のアメニティは見習うべきものが多かったと思います。

UWM（University of Wisconsin Milwaukee）College of Nursingでは、各領域の教授陣からお話しを聴くことができ、学部全体の把握に役立ちました。次回は、お目にかかれなかったリハビリテーション部門を含めた施設見学や授業参観をしたいと思います。

100年の歴史のあるMilwaukee Catholic Homeでは、入所している方々の食事はレストランのような食堂でメニューは選択式、献立や調理法など非常に工夫されていました。アルコールもOKです。

ほぼ希望した通りの素晴らしいプログラムを組んで頂き、Wisconsin-Chiba Inc.の皆様に心より感謝いたします。

（石井崇子）

UWM College of Nursing

Milwaukee Catholic Homeの
レストランのような食堂風景

<団員>千葉県立保健医療大学
安部　能成（リハビリテーション学科准教授）
丸谷　美紀（看護学科准教授）･林　芙美（栄養学科講師）
石井　崇子（千葉ウィスコンシン協会）

Aurora Sinai Medical Centerにて

UWM College of Nursing

<行程>

10/14　Growing power視察
Aurora Sinai Medical Center視察
10/15　Frederick J.Gaenslen School 訪問　UWM College of Nursing訪問
10/16　キッコーマン工場･ウィスコンシン州庁舎訪問
10/17　Milwaukee Catholic Home訪問　Milwaukee County Cooperative Extension訪問

鴨川市とマニトワック市は姉妹都市となって20周年を迎えました

長谷川市長とJ.Nickels市長

鴨川市とマニトワック市は平成5年に姉妹都市となり、以来、幅広い分野で交流をしてきました。9月12日には、市長をはじめ総勢40名を超えるマニトワック市民訪問団が鴨川市を訪問し、数日にわたり歓迎・交流のイベントが行われました。交流行事の合間を縫って、前市教育長の長谷川孝夫市長及び26歳のJustin Nickels市長から交流への思いなどを伺いました。

【鴨川市長インタビュー】

●これまで何人の市民がマニトワック市を訪問されましたか。

中学・高校生が約100人、教職員・職員が約100人、今年7回目を迎えた市民訪問団も200人以上がマニトワック市を訪問しています。

●20年間の交流を通じ何か形になってきたものはありますか。

多くの海外の人との交流を通じ、子どもたちがグローバルな人になることを期待し交流事業を進めてきましたが、多くの青年が育ってきたという実感があります。

中には、鴨川市の方と結婚したマニトワック市の方も何人かいて、これも素晴らしい交流があったからだと思います。

●かってマニトワック市を訪問した若者が活躍していると伺っていますが。

国際的な視野感覚も持つ若者が育ってきています。鴨川市では特別カリキュラムで、小学校1年生から英語の勉強をしています。マニトワック市との交流を進める中で、早期に英語に興味・関心を持つ取組みが必要と感じたからです。

外国語の勉強は、日本をしっかり見ることでもあり、外国文化を知ることにつながる。むしろ私はそれを期待しています。広い視野に立った環境づくりが町づくりにおいて大切です。20年後、30年後に向けて、こうした環境を深化させたいと思います。

●これからの交流への期待をお聞かせください。

今、文化や学生間の交流などをしていますが、今後、職員や教職員など大人たちの相互研修という形の民間交流であるとか、大きな病院もあるので、病院同士の交流など、交流の幅を広げていきたいと思います。

記念式典・歓迎祝賀会の会場風景

◀ ボランティアによる家庭料理でおもてなし

着付けはもちろんボランティア ▶

【マニトワック市長インタビュー】

●鴨川市に来るのは初めてですか。

日本に来たのは初めてです。

●鴨川市の印象はいかがですか。

私はこの町が大好きです。人々も食べ物も大変素晴らしい。

●鴨川市に来る前、楽しみにしていたことはありますか。

これまで何回かマニトワック市で鴨川市民と会っていたので、鴨川市のすべてを見たいと思っていました。今回、直に鴨川市の伝統、衣装、文化に触れることができ、とてもワクワクしています。

●訪問団の中にはまるで故郷にいるかのようにくつろいでいる方もいらしゃいますか。

両市は、面積、人口もほぼ同じです。文化は違いますが、ここではすべての方がとても親切で、我々を歓迎してくれます。長く姉妹都市であったからだと思います。

●鴨川市が海に近いことについてはいかがですか。

私の家の窓から、ミシガン湖が見えます。両市とも水に囲まれているので、故郷のように感じるのだと思います。

●これからの交流への期待についてお聞かせください。

我々は既に活気ある、歓待し合う、姉妹都市なので、この関係を発展させたい。最も重要なことは友情が世界中の人々を高めていることだと思います。もちろん、学生の交流を続けることはその一環です。学生にとって新しい文化、考え、人々を知ることがとても重要です。

キッコーマン・ウィスコンシン工場 設立40周年を振り返って

Kikkoman Foods, Inc.社長
清水　和生

キッコーマンの米国ウィスコンシン工場が今年6月に40周年の節目を迎えました。日本の調味料を代表する醤油が遠く海を渡り、今ではアメリカのほとんどのスーパーマーケットの棚に並び、多くの一般家庭やレストランで使われるようになりました。設立以来、多くの方々のご支援、ご協力のおかげでKIKKOMANはアメリカのトップブランドとしてその地位を確立してきました。

1973年、当時まだアメリカに製造拠点を持つ日本企業がない中で、キッコーマンの挑戦が始まりました。アメリカ中西部に位置するウィスコンシン州は、全米への物流拠点の中心に位置し、主要原料である大豆と小麦の生産地に近いこと、良質な水資源が豊富であり、勤勉な労働力に恵まれていることもあり、工場立地として選定され醤油生産がスタートしました。

約500名が参加した記念式典のレセプション会場
(the Abbey Resort の Harbor Terrace（フォンタナ）)

今では寿司、テンプラといった和食メニューもアメリカでは広く一般に定着してきましたが、日本食ブームに乗るのではなく、いかに地元の料理に醤油を使っていただくか、一般家庭にいかに受け入れていただくかという視点からマーケティングを展開してきました。レシピの開発を通して醤油の特性である味の広がり、香りの良さを訴求し、スーパーマーケットでの試食販売という地道な活動を通し、その品質の良さが受け容れられてきたと考えています。

記念式典の夕食会会場 (the Abbey Resort の Harbor Ballroom)

出荷も順調に拡大し、1998年にはカリフォルニア州フォルサムに米国第二工場を建設しました。今ではシンガポール、オランダ、台湾、中国の工場から世界のマーケットに日本と同じ品質のキッコーマン醤油をお届けしています。

今年6月7日、工場設立40周年の記念式典の夕食会に先立ち「日米経済カンファレンス」を開催しました。元日本銀行総裁の福井俊彦氏、ウィスコンシン州知事のスコット・ウオーカー氏等をはじめとしたスピーカーをお招きし、産官学それぞれの立場の方々から素晴らしい提言を頂きました。また、式典前日には日米の流通業を代表する経営者、研究者の方々による「日米食品流通シンポジウム」を主催し、「グローバル化時代の消費者と食品小売業の対応」というテーマで活発な議論が交わされました。

また40周年の記念事業の一環としてウィスコンシン大学ミルウォーキー校に総額100万ドルの寄付を発表しました。この寄付により同大学のライフサイエンス学部内に「キッコーマン"水資源"環境衛生研究所」が設立されました。飲料水の安全性と長期的な確保、重要な天然資源の管理といった研究が更に進むことが期待されます。

千葉県野田市で醤油作りをスタートし、今ではウィスコンシンを代表する企業にまで成長してきました。挑戦者の気概と姿勢を持ち続けて海外市場を切り開き今日のキッコーマンが築かれてきましたが、KIKKOMANをグローバルスタンダードの調味料にすることを目標に、我々のさらなる挑戦は続きます。

広大な地平線まで続く豊かな酪農地、そして美しい自然に育まれたウィスコンシンの地にしっかりと根をはり、今後も地元との共存共生を大切にしながら、経営の現地化を更に徹底させながらキッコーマンのウィスコンシン工場は新たな一歩を踏み出しました。

170名が働くKikkoman Foods, Inc. (KFI) ウィスコンシン工場（ウォールワース）

行ってみよう ウィスコンシン州 vol.7

_ Central Wisconsin Landscapes _

Megan Burkeさん
（元ALT）

※日本語は紙面の都合で意訳としました。

After living in Chiba Prefecture for six years as part of the Chiba-Wisconsin Assistant Language Teacher (ALT) Program, I moved back to Wisconsin in August of 2013 and began teaching literature and composition at Adams-Friendship Middle School. Adams-Friendship is a rural community that even many Wisconsinites are not too familiar with. The city of Adams shares a border with the village of Friendship and therefore the name Adams-Friendship developed. Moving to and living in a very rural part of central Wisconsin continues to be a new adventure for me. With each week I am discovering areas to explore and enjoy.

From August to October I lived in the city of Wisconsin Dells, thirty miles south of my workplace in Adams-Friendship. In addition to a main strip of shops and restaurants, Wisconsin Dells is known for an abundance of outdoor and indoor water and theme parks. Even beyond all of the tourist attractions, it is hard to miss the beautiful nature in Wisconsin Dells. Wisconsin Dells is an area that is scenic because of the glacially formed gorges and sandstone formations along the banks of the Wisconsin River.

10月初旬のthe Wisconsin River in Wisconsin Dells

Wisconsin Dells was a nice place to live, but by mid October I decided it was time to move closer to my students' community and school in Adams-Friendship. I moved thirty minutes north of Wisconsin Dells to the city of Adams (population: 1,967). With each day, I like this quaint area more and more. The city of Adams has many scenic lakes, forests and hills. It is also not uncommon to see deer, wild turkeys and a variety of other wildlife roaming the streets or neighborhoods. Many of my seventh grade students are having some of their initial hunting experiences with their families. My students tell me that white-tailed deer, squirrels, coyotes, wolves, and bobcats are popular hunting game in the area.

Surrounding the city of Adams are various state and county parks. One state park closest to Adams is Roche-A-Cri State Park. Roche-A-Cri was initially established to protect Native American petroglyphs and pictographs. The name Roche-A-Cri comes from the French word meaning "crevice in the rock." Big Roche-A-Cri Lake also is a beautiful place to see throughout the seasons.

9月初旬のBig Roche-A-Cri Lake

Driving south from Adams and even a bit further south from Wisconsin Dells, Devils Lake State Park is another breathtaking area carved out by the glaciers long ago. Devil's Lake is the largest state park in Wisconsin. I often visit this area on weekends because it has around 41 miles (66 km) of hiking in the park and plenty of rock climbing, camping and activities on the water.

Wisconsin Dells, Devil's Lake and Roche-A-Cri are just a few of the landscapes in central Wisconsin that I have enjoyed this fall. There are various lakes, forests and parks I still need to venture off to with cross country skis or snowshoes this winter. Although it has been a beautiful fall in Wisconsin, I still miss the changing of seasons in Chiba Prefecture and throughout Japan. As I am becoming more and more acclimated to living in Wisconsin, my experiences and memories working with people in Chiba Prefecture are always with me. All I learned while living in Japan continues to and will always influence my teaching and daily life.

ALTとして千葉県に6年間住み、この8月ウィスコンシン州に戻りアダムス・フレンドシップ中学校で文学と作文を教え始めました。アダムス・フレンドシップはウィスコンシン州の住民にさえあまり知られていない田舎町です。アダムス市とフレンドシップ村は境界を接しているためこの名前がつきました。ウィスコンシン州中央の田舎に移り住んでから、新たな冒険の連続で、毎週のように探索しては楽しい場所を発見しています。

Megan Burkeさんのクラスの生徒たち

8月から10月にかけて職場から30マイル南のウィスコンシン・デルズ市に住んでいました。ここは野外と屋内の水の公園やテーマパークが多く有名ですが、美しい自然もあり、ウィスコンシン川の両岸には氷河によって出来た渓谷や砂岩の地層が連なり絶景です。

アダムス市（人口1,967人）は、多くの美しい湖、森、丘があり、鹿や七面鳥、多様な野生動物が街や近所に出没するこの静かな地域を日ごとに好きになっています。私が担任の7学年の生徒の多くは家族との狩りを初体験し、獲物は鹿、リス、コヨーテ、狼、オオヤマネコだと教えてくれます。

同市周辺の州や郡立公園の中で、市に最も近い州立公園はRoche-A-Cri州立公園です。この公園はネイティブの岩の線画（陰刻）や象形文字を保護するために作られましたが、名前の由来は岩の裂け目を意味するフランス語です。

同市から南にドライブして、ウィスコンシン・デルズから少し南に行った所のDevils湖は昔氷河に浸食されて出来たところで、息をのむような美しさです。この湖はウィスコンシン州最大の州立公園で、週末によく行きます。約66kmのハイキングコースをはじめロッククライミングやキャンプが出来る多くの場所があります。また、ウィスコンシン州中央には冬にクロスカントリースキーなどを楽しめる湖、森、公園があります。

ウィスコンシン州の秋は美しいのですが、千葉や日本各地の四季の変化が観られず今でも寂しく思っています。ウィスコンシン州の生活にも次第に慣れましたが、千葉での体験や思い出が常に私の中にあり、日本で学んだ全てのことが日々の暮らしに活きています。

★「第45回日本・米国中西部会　日米合同会議」が東京で開催

去る9月8日(日)から10日(火)にかけて、『第45回日本・米国中西部会　日米合同会議』が、東京・目黒雅叙園と帝国ホテルを会場に開催されました。

この会議は、日本と米国中西部諸州の経済関係者や自治体関係者等が一堂に会し、相互交流や理解促進を図る目的として、毎年日米交互に開催されているものです。

本年は、『持続可能な経済成長の探求』を会議テーマに日米双方から320名以上の参加者を集めて盛大に開催され、活発な議論が行われました。

来賓挨拶をされる森田知事

米国からは、中西部のアイオワ、インディアナ、イリノイ、ミシガン、ウィスコンシンの各州知事が出席し、日本からは森田健作千葉県知事のほか滋賀、埼玉、山梨、岩手の各県知事が参加されました。この機会を通じ、森田知事と、スコット・ウォーカー(Scott Walker)ウィスコンシン州知事も、面談を行いました。

ウィスコンシン・千葉委員会委員長のケビン・クロフォード(Kevin Crawford)氏は、オリオン・エナジー・システムズ社(本社:ウィスコンシン州)の副社長をしておられますが、『エネルギー問題の解決策の探求』をテーマとしたパネルディスカッションでパネリストとして活躍されていました。

会議は、最終日に共同声明を採択し、閉会となりました。来年度は9月7日から9日にアイオワ州デモインでの開催が予定されています。

★ ALTとの食文化交流のつどいを千葉市生涯学習センターで開催 ～サンクス・ギビング料理でアメリカの食文化を体験～

ローストターキーの解体ショー

アメリカの11月の祝日と言えばサンクス・ギビング・デー(感謝祭)です。CWAでは、それに合わせてウィスコンシン州出身のALT(外国語指導助手)との共同企画による“食文化交流のつどい”を開催。11月9日(土)はお天気にも恵まれ、会場となった千葉市生涯学習センターにALT・会員・一般参加者を含め33人が集まりました。

北米大陸に初めて渡った人々の苦労と彼らの生活を助けたネイティブアメリカンへの感謝に由来するサンクス・ギビング・デーの主役は、伝統料理のローストターキーとパンプキンパイ。8人のALTによる指導のもとに、参加者は5つのグループに分かれ、付け合わせのマッシュポテトやスタッフィング、グリーンビーンキャセロール、アップルサイダー、パンプキンパイづくりに励みます。参加した子どもたちもエプロンと三角布姿で大張りきり、会場の雰囲気を盛り上げてくれました。

次はどうするの？

真剣な気持ちが伝わってきます

3時間以上かけてKate Johnson(県立東金高校ALT)さんが焼きあげた見事なローストチキンの完成に合わせて料理を取り分け、皆でテーブルを囲みます。企画の中心となったKateさんの顔にも、満足げな表情が浮かびました。アメリカの伝統料理を通して食文化や延いてはアメリカ文化に触れる今回の企画は、様々な年齢層が集い、英語と日本語が飛び交う賑やかな交流の場となりました。

おいしい食事に話もはずみます

参加者からは、サンクス・ギビング料理が日本で食べられてとても幸運だった。 次回も是非参加したいとのご意見をいただきました。(参加費　会員500円、一般1,000円)

ウィスコンシン州出身のALTを紹介します！
県立高校には多くのウィスコンシン州出身のALTがいます。

ALTとは、Assistant Language Teacherの略で、外国語を母国語とする外国語指導助手をいいます。

現在県内の小中、高等学校には、英語発音や国際理解教育の向上のため多くのALTが配置されていますが、今回県立高校にいるウィスコンシン州出身のALTを紹介します。

顔写真左から
David Pelikan（教育庁教育振興部指導課）
Lauren Rushford（匝瑳高校）
Ryan Haugen（匝瑳高校）

後列左から
David Reed（君津高校）
Alexander Foxcroft-Knop（松戸国際高校）
Benjamin Van Orsdol（八街高校）
Fred Lauer（東金高校）
Cory Swanson（柏井高校）
David Klug（流山おおたかの森高校）
Patrick Grimes（安房高校・長狭高校）

前列左から
Rachel Wang（土気高校・千城台高校）
James Weber（松戸国際高校・薬園台高校）
Mary Johnson（成田国際高校）
Kate Johnson（東金高校）
Rebecca Hafermann（流山おおたかの森高校）
Kristen Roth（幕張総合高校）
※（　　）中は所属名

千葉ウィスコンシン協会設立10周年記念事業実施のお知らせ

2004年５月に発足した千葉ウィスコンシン協会は来年で10周年という節目の年を迎えます。

そこで、これまでの歩みを振り返るとともに、今後、千葉県とウィスコンシン州との姉妹交流がより深まるよう、来たる５月31日(土)、ポートプラザ千葉で「千葉ウィスコンシン協会設立10周年記念事業」を実施の予定です。

詳細は後日お知らせいたしますが、多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

CWA 入会のご案内

[会　　費]（2013年12月1日現在/個人119名・団体16団体・賛助4団体）
1　個人会員　　2，000円
2　団体会員　10，000円
3　賛助会員　20，000円（1口）（※何口でも可）

[事業内容]
1　ウィスコンシン州との姉妹交流事業（派遣・受入）
2　会員等交流事業
3　ウィスコンシン州に関する情報収集とその発信
4　地域の国際交流事業への参加

【特　　典】
☆　会報（CWA NEWS）の発行
☆　ウィスコンシン州との交流イベントの企画運営に参加
☆　交流イベントのご案内
☆　ウィスコンシン州内の団体等との交流をバックアップ

【会費納入方法】
銀行振込（ゆうちょ銀行・千葉銀行）または郵便振替
※詳しくは下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
電話　043−223−2398（千葉県総合企画部国際課内）

【編集後記】
今年度のメイン事業である友好使節団派遣事業が無事終了しました。各団員とも有意義な時間を過ごすことができたと伺いましたが、ホームステイでは昨年度ウィスコンシン州から来たポメラニアンダンサーの皆様の温かな心遣いに接し、とても感激したとの報告もありました。
CWAはこれからも交流の輪を拡げる活動を続けてまいります。

発行所：千葉ウィスコンシン協会
発行人：森山茂男　　編集：広報部会
http://www.chiba-wisconsin.jp/
〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階
（公財）ちば国際コンベンションビューロー内
＊電話でのお問い合わせ　☎043-223-2394（千葉県国際課内）